

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育理念 人権教育と特別支援教育を推進しながらキャリア教育と聴覚障がい教育の融合を図って、我が国の平和と繁栄を支える人材を育成する。

教育目標 聴覚に障がいのある生徒の後期中等教育の充実をめざした教育を実践し、一人ひとりの生徒の自己実現に向けた教育を行う

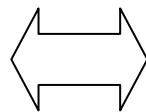
学校の使命 青年期の聴覚障がい生徒の持てる力を最大限に伸ばし、派生する課題をワンストップで対応する

校訓 「自立 規範 明朗」

学校スローガン「自ら学び自ら変わること社会に貢献する」

重点目標

- 1 生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実
- 2 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり
- 3 聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供



めざす生徒像

- 一人ひとりが生き生きとした活力のある生徒
- チャレンジ精神にあふれた生徒
- 互いを助け合いながら共に生きる生徒

めざす学校像

- 変化を怖れず挑戦する学校
- 地域に開かれた信頼される学校
- 安全で安心できる学校

2 中期的目標

(1) 聴覚障がい生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実

- 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の醸成（自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒）
 - ・生徒自治会活動でのマナー推進活動を行い、平成 27 年度の遅刻、懲戒件数の平成 25 年度の半減、平成 28 年度生徒指導のモデル校
 - ・体力づくり、仲間づくり、事業所等の現場体験実習や就職面接会等での経験を重視する。クラブ活動では実績の発信、高校との交流を図り、平成 27 年度も近畿大会・全国大会の優勝をめざす。キャリア教育の充実を図り事業所現場体験・見学の学習を全学年で実施、デュアルシステム学習を平成 27 年度全学年で実施するとともにキャリア教育の基礎としての生徒指導の充実を図る。
- 情報保障を充実させ基礎学力の定着・発展と国語力（特に書いて表現する力）を伸長を図る
 - ・学校経営推進費によるタブレット型 PC と電子黒板の導入により双方向性の授業を実施するとともに多様なコンテンツを活用して個別指導の充実を図り、大学進学を範囲を広げていく。27 年度までに希望する大学への進学率を 85% にし新たに国公立大学合格者を出す。
 - ・タブレット型 PC を活用した自学自習の環境を整備し、自ら発信する力を高めるとともに 27 年度には全生徒に自学自習を定着させる
 - ・伝統文化に触れる学習として俳句等の学習を継続的に行う。27 年度までにだいせん句集等生徒の思いを乗せた冊子を発行
 - ・各種試験等における受験者の学力結果を 10% 以上あげ、全生徒の資格取得を図る。
- 国際交流等をととしてグローバル人材の育成を図り、海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る
 - ・国際交流を推進するとともに海外への大学進学を図る。平成 26 年度 ICT 機器を活用して海外の学校交流を図るとともに、ASL（アメリカ手話）等の手話講座を開講する。海外の大学進学に向けたカリキュラムを検討する。平成 27 年度国際コースを実施し、ネットを活用した交流を深めつつ、カリキュラムに基づく指導の検証と大学状況確認。短期留学を試みる。平成 28 年度ネットを活用した日常的な交流を図りつつ、国際コースを充実させ、海外の大学（ギャローデット等）への挑戦を試みる。
- 進路・就職指導のネットワークの充実
 - ・キャリア教育の充実をより一層推進するとともに校外の活動をキャリア教育の視点で見直し検討する。
 - ・関係機関との連携と組織化を図る。平成 26 年度中にだいせん懇話会を立ち上げ、27 年度にネットワーク化し青年期の聴覚障がいの課題等の相互の情報交換の場としたい。

(2) 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり

- 安全で安心できる学校教育活動の推進
 - ・緊急連絡体制や地震対応、不審者対応を図る。学校評価等学校への意見をホームページ等も活用して声が届きやすくする。
 - ・26 年度にハザードマップ・お願い手帳（25 年度作成）等活用した緊急時の避難指導を行う、また生徒会活動にも緊急時の対応についての取り組みをさせる。
 - ・26 年度清掃活動等校内美化の活動をキャリア教育の視点からの取り組む、28 年度には地域の美化活動に参加
- 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいのある学校づくり
 - ・「個別の教育支援計画」の作成と活用を通じて保護者との共感と連帯感をつくる。平成 26 年度に保護者向け活用マニュアル作成。
 - ・26 年度 ICT 機器を活用した指導の充実を図り、家庭学習に活用、28 年度自己表現の方法に活用できるようにする。
- 地域への発信を高め、聴覚障がい生徒の青年期の課題等への支援ネットワークづくり
 - ・地域との関係を文化教室等で深めるなか青年期の課題の啓発を図り、27 年度高等学校等との支援ネットワークの構築 28 年度は相互交流を図る
 - ・平成 25 年度福祉避難所指定を堺市から受け、27 年度は地域に聴覚障がい生徒の緊急時の対応の啓発を実施。28 年度には地域の防災との連携ネットワークを作る。

(3) 聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供

- 学校組織としての専門性の向上（人材育成、地域支援の充実）
 - ・個別の教育支援計画の活用例や発達障がい等の継続した理解啓発を進め、26 年度二次障がい対応プロジェクト 27 年度・28 年度聴覚障がい生徒の二次障がいへの対応事例集作成
- 教職員一人ひとりの資質の向上と専門性の向上をタブレット型 PC ・電子黒板等 ICT 機器（授業力向上、教材開発等）を活用して行う
 - ・教職員一人ひとりの授業評価に基づく授業改善の工夫を図るとともに、新たな ICT 機器を活用した実践研究の発信を行う。平成 26 年度に実践発表を行う。平成 27 年・28 年に教育課程の開発研究を行う。
 - ・ICT の活用等先行事例や研究者の講義を受け、27 年度までに本校の ICT 活用の事例アイデア・工夫集作成。28 年度は文字情報システムと iPad 等 ICT 機器活用を学校全体のシステムで完成させる。
 - ・25 年度に実現した校内 Wifi 環境を活かした聴覚障がい生徒の情報保障のモデルとして全国に発信し聴覚障がいの理解啓発の一助とする
 - ・キャリア教育と職業教育について整理し 26 年度教育活動をキャリア教育の観点から整理見直し「だいせん聴覚高等支援学校版キャリア教育」まとめを 27 年度に行う
 - ・26 年度 ASL（アメリカ手話）等への関心を広げつつ国際的視野を持ち、ICT 機器を活用した教員交流を実施、短期留学にむけ教員を派遣する。27 年度で海外の聴覚障がいの教育について小冊子にまとめる。ネットを活用した教員交流を深める。28 年度に日常的な意見交換を実施し、国際交流の指導モデルとしてまとめ発表する。
- 職業学科である専攻科の充実を図る
 - ・時代に応じた教育内容の精選を図り、26 年度指導技術の向上を図る。28 年度には時代に応じた機器と指導内容の完成を図る
 - ・情報コミュニケーション科においてタブレット型パソコンを用いてネットワーク構築やマクロやソフト開発に向けた授業を実施し、28 年度に、だいせん聴覚高等支援学校ソフト活用集を作成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見概要
<p>[本校の教育全般等]</p> <p>iPad と文字情報システムを中心とした ICT 活用による授業改善や反転学習の試みやグローバル人材養成の ASL の授業や講座開講など学校経営推進費事業を中心に授業力の向上を図る公開授業や研究会、実習等の試みを積極的にを行い、本人や保護者の思いに寄り添う学校づくりを進めた、保護者における「一般的に満足できる」の満足度 90% 「本校には他校にはない良さ（特色）がある」満足度 81% であった。生徒向けにおいて同様の項目でそれぞれ 79%、60% の満足度であった。保護者のニーズを全体として捉えているが、生徒のニーズが本科と専攻科で差があり「他校にない良さ」では 53% と 76% の満足度であった。次年度は本校の特色であるキャリア教育をより徹底させ、指導内容の充実を図りたい。特に本科における特色を明確にして、生徒が iPad 等活用して時間管理・自学自習の力をつけ、学力の向上と職業への意欲、将来への計画を高めることに取り組む。専攻科においては職業意識と将来像をより確かにする取り組みをしていく必要がある。</p>	<p>6 月 20 日（金）第 1 回</p> <p>○学校経営計画の目標と本年度の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での教員の手話の習熟度について。 ・部活動が特定のクラブに集中しているようにみえることについて。 ・問題を起こしている生徒の実態について。 ・国際コースとグローバル人材養成の短期留学予定について。 <p>○授業評価とカリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程本科・専攻科の時間数、だいせん体験学、 ・授業評価アンケートの項目と実施の際の匿名性 ・生徒の遅刻に関する問題。 ・iPad 使用での進捗状況について。
<p>[進路指導・キャリア教育]</p> <p>本校のキャリア教育を中心に据えた取り組みは、「進路指導のシステムへの信頼」について保護者満足度は 91% であり、従来より 90% 超え着実なものとなっている。また、教員の進路に関する取り組みについては今年も 95% 以上の満足度である。</p> <p>本校のキャリア教育より進めるために大学進学・就職に向けた進路指導の土台となる日常の生徒指導をしっかりと位置づけるとともに個々の教員が社会人の模範であるという組織風土が醸成されてきている。</p> <p>作業検査等職業教育での検査についての理解も深まり、満足度が保護者 89% 生徒 71% 教員 88% と上がった。職業検査の意義についての理解が高まった。次年度以降、より学校の特色を明確にするためにも「だいせん聴覚高等支援学校のキャリア教育」としてその実践のポイントをまとめ、発信していくことが必要である。</p>	<p>意見・提言概要</p> <p>○情報機器が便利になって教育機器が高度になればなるほどわかりやすい授業は先生の力量が必要になる。先生方の実習実践で経験をつんでもらいたい。</p> <p>○保護者目線での話もいただいた。生徒にとって基礎学力を定着させることが大切である。</p> <p>○大学進学にむけて新しい取り組みとして海外に向けて進学する国際コースの設置をめざすことも積極的に行ってほしい。</p> <p>○通常の生活態度や学習に臨む姿勢が中学校から課題を抱えている生徒が多い。遅刻をしている生徒は数名が繰り返している実状がある。より丁寧に入り込んでの指導が必要である。</p>
<p>[学習指導等]</p> <p>iPad 等 ICT 機器を活用し教材や授業の工夫を行い「分かりやすい授業」に取り組んでいる。教材や指導方法の工夫について、保護者 98%、教員 94% の満足度であったが 86% の満足度であった。iPad を中心にした ICT 機器活用の校内基盤ができた。一人ひとりに応じた指導を行っていることについては、保護者と教員 91% であった。興味深い授業については、生徒の満足度は、本科 57%、専攻科 71%。授業では工夫を行いながら内容を分かりやすく伝えていこうとしている。生徒の理解度を上げる工夫を今後検討していく必要がある。学校クラウドの活用による反転学習や自学自習の取組みを次年度実施していく必要がある。</p>	<p>12 月 12 日（金）第 2 回</p> <p>○学校経営計画の進捗状況の概要について</p> <p>○生徒指導について</p> <p>○平成 26 年度卒業予定者進路状況について</p> <p>○どこでも ICT 事業について iPad の活用状況</p> <p>○グローバル人材育成事業について 国際交流の試み</p> <p>○授業評価・学校評価について</p> <p>意見・提言概要</p> <p>○最初のうちにモラルや注意事項を良く指導しておく必要がある。社員教育をするが他の生活面と同様、本当によく言っておかなければならないと痛感している。</p> <p>○iPad は非常に便利なものであり、時代の流れもあり使っていくと思うが、iPad を文字ではなく映像で活用していくようになると文字を読まなくなるいわゆる読み書きがおろそかになることが考えられる。「読み書き」の指導もきちんと行う必要がある。</p> <p>○会社でもどこでもそうだが、まず教える方、先生の研修が必要である、</p> <p>○確かに iPad は良いがモラルの問題がある、我が社でも iPad の裏に注意事項が張ってあり使用時はそれを確認してから使用するようになっている。学校でもそのような取り組みをしてはどうか。</p> <p>○生活指導について最初が大事である。保護者への対応が重要であり一学期の最初が大事である。</p> <p>○企業は遅刻の多い人は原則雇わない現実をしっかり教えていかねばならない、指導はしんどいと思うが、子どもに現実をぶつけてやらないと今の子どもは過保護すぎる。</p> <p>○保護者も将来就職したときのことや社会生活をしたときのことを考えると時間を守ることは基本中の基本である。ルールは大事である。</p> <p>○私の友達でも外国との交流が増えており「だいせん」も将来国際交流をめざすのでトラブル対応についても教育をしたうえでの交流をお願いしたい。</p> <p>○将来意欲のある生徒がギャロデット大学へ進学する環境になればアメリカ手話は大事な部分である。</p>
<p>[生徒指導等]</p> <p>学科長・学年主任会議を設置し生徒指導への情報共有と組織的対応を図った。生徒指導部が学年と連携した対応を見せた。「学校の生徒指導は適切である」に対して、保護者 93% 生徒 80% 教員 70% の満足度で昨年度の比べ、10% 程度改善された。特に教員の満足度は大幅に改善された。生徒指導における情報共有が根付いてきている。「問題行動への組織的対応」では、依然、世代差、学科による差が見られの満足度は 66% であった。次年度は、問題行動に対する対応の流れをより明確にしていくことと学科の枠を越えて全教員が責任を持って対応する意識を作る必要がある。</p>	<p>第 3 回学校協議会（平成 27 年 2 月 16 日）</p> <p>○平成 26 年度学校経営計画の結果について</p> <p>学校組織・iPad 等 ICT 活用・生徒指導・国際交流・個別の教育支援計画・個別の指導計画・地域、災害対応</p> <p>意見・提言</p> <p>○学校経営計画の理解を深めるためにも、1 年ごとに単年度計画を立てて数値目標を立てたほうがわかりやすい</p> <p>○学習意欲を高める取り組みには、学力向上の成果として見える指標が必要である。</p> <p>○書くことの大切さを自覚した指導を行うことが大切である。</p> <p>○部活動や生徒会活動は集団の中でのコミュニケーション力の育成につながる大切な活動である。</p> <p>○進路も含め生徒自身が自主的に取り組むことが大切である。</p> <p>○生徒の自主的など取組みは、なかなか数値化しにくい。アップダウンは数値化できるが、宿題に取り組むなどは数値化しにくい。</p> <p>○学校経営計画の自己評価の数値は努力目標を評価しているようなところがあり、明確な達成目標のようなかたちがあれば分かりやすい。</p> <p>○5 月は卒業した先輩の体験を聞き 2 月は就職活動経験を在校生が後輩に伝える試みは後輩の進路指導にとっても役立つものである。</p> <p>○SNS が社会の中で位置づいている以上、情報モラルへの生徒の理解を引き続き高めていくことが大切である。</p> <p>○遅刻常習生徒について家庭での理解を図る必要がある。</p>
<p>[学校経営]</p> <p>「学校の良さ（特色）がある」では保護者満足度 91% と高い評価を得ている。2 つの学校経営推進費事業を進め、キャリア教育の充実を土台に iPad・文字情報システム等 ICT 機器を活用した学力向上、資格取得とグローバル人材育成に取り組んだ。アメリカ手話（ASL）の授業と海外交流の土台作りが進んだ。「保護者の要望や意見を尊重した教育活動」93% 「一人ひとりに応じた指導」91% の保護者満足度である。教員が保護者の声を大切に、障がいの特性を理解して一人ひとりに応じた対応している。生徒の評価が全体として保護者より低いことから、引き続きコミュニケーション方法も含め日常的な生徒への関わり方を課題としていきたい。</p> <p>学校環境では、「安全な学校生活が送れるような配慮がある」96% 「清掃が行き届いている」98% 「学習環境の面で満足できる」96% と保護者満足度は極めて高い。次年度は、より特色を明確にする学校経営推進費事業の「全ての教室で ICT」が 3 年目、「グローバル人材育成」が 2 年目である。iPad・文字情報システムを中心にした生徒の自己管理・自学自習力向上の指導と ASL の海外との授業交流・海外留学への挑戦があり、本校のキャリア教育の充実へと結びつけていくことが課題である。</p>	<p>○進路も含め生徒自身が自主的に取り組むことが大切である。</p> <p>○生徒の自主的など取組みは、なかなか数値化しにくい。アップダウンは数値化できるが、宿題に取り組むなどは数値化しにくい。</p> <p>○学校経営計画の自己評価の数値は努力目標を評価しているようなところがあり、明確な達成目標のようなかたちがあれば分かりやすい。</p> <p>○5 月は卒業した先輩の体験を聞き 2 月は就職活動経験を在校生が後輩に伝える試みは後輩の進路指導にとっても役立つものである。</p> <p>○SNS が社会の中で位置づいている以上、情報モラルへの生徒の理解を引き続き高めていくことが大切である。</p> <p>○遅刻常習生徒について家庭での理解を図る必要がある。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
聴覚障がい生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実	<p>(1) 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の醸成(自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒)</p> <p>ア 生徒指導体制の見直しと充実</p> <p>イ 生徒自治会の活性化と部活動の推進</p> <p>ウ 部活動の活性化</p> <p>(2) 情報保障を充実させ基礎学力の定着・発展と国語力(特に書いて表現する力)を伸長を図る</p> <p>エ ICT機器の活用したより分かりやすい教育実践と評価</p> <p>オ あらゆる機会を活用した国語力の向上</p> <p>(3) 国際交流をととしてグローバル人材の育成を図り、海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る</p> <p>カ 海外の豊学校等との交流を図る</p> <p>キ 国際コースに向けたカリキュラムの検討を行う</p> <p>(4) 進路・就職指導のネットワークの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒指導体制を見直し、キャリア教育を基盤とする生徒指導の徹底をはかる。学科長・学年主任会議を設置し生徒指導部の機能を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分掌組織の検討、再編 会議の効率化と運用及び目的の明確化 <p>イ・生徒自治会の指導を日々の学校生活に反映できるよう、各係活動等を組み込んでいくとともにホームルームでの指導と連携させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内美化等の具体的な活動を考える。 キャリア教育の視点で自主活動を考える。 <p>ウ・部活動の支援体制と生徒の挑戦する意欲を引き出す工夫を行うとともに生徒・保護者の部活動の意義啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部人材の活用 保護者、生徒向けの情報発信や表彰 ICT機器の活用 <p>(2)</p> <p>エ・学力向上に向けたiPad等ICT機器を活用した実践</p> <ul style="list-style-type: none"> iPadアプリ、電子黒板等を活用したより「分かりやすい」授業へ ネット等活用した新しい学びの形を探索 校内実力考査を実施し実態を把握する <p>オ・各教科等をととした国語力の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己表現力を伸ばすためのiPad等ICT機器を活用した授業方法の開拓 教科の時間だけでなくホームルーム等を活用してメモする力や書いてまとめる力や俳句等表現する力を伸ばす <p>(3)</p> <p>カ・iPad等ICT機器を活用した海外との交流を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ASL(アメリカ手話)等の学習を実施する。 日本の大学関係者との連携を行う <p>キ・海外の豊学校等に教員を派遣し、具体的な交流の実施と海外での聴覚障がい教育の現状把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期留学先の検討を行い、手順等を作成する <p>(4)</p> <p>ク・進学就職等の関係機関とのネットワークの窓口と学校組織との関係をより固める</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路講演会での講師招聘 組織的な進路指導体制づくりを念頭に運営のノウハウを「見える化」する。 	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻懲戒件数を25年度の半減246件以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校評価における「生徒指導は適切である」満足度70%(平成25年度53%保護者81%生徒71%) <p>イ・生徒向け学校評価「生徒自治会活動」に関する満足度60%(平成25年度40%)</p> <p>ウ・近畿大会または全国大会での優勝</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者向け学校評価「部活動が学校生活を充実」満足度75%(平成25年度63%、保護者69%教員89%) <p>(2)</p> <p>エ・ICT活用実践集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校評価「分かりやすく興味深い授業」満足度75%(平成25年度63%) <p>オ・iPadの生徒の活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校評価「目標を持って毎日の学習に取り組む」満足度75%(平成25年度56%) 理系・文系教育課程の実施 英語力の伸長とICT活用を図った実態。実用技能英語検定合格者15名 <p>(3)</p> <p>カ・ネットを通じた交流を実施し、継続的な国際交流姉妹校を1校確定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ASL(アメリカ手話)等の講座開設し10回実施。 2大学関係者と連携する。 <p>キ・国際コースカリキュラム案の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期留学先の確定 <p>(4)</p> <p>ク・就職希望者の就職率100%と大学進学者希望大学進学100%達成</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校評価「進路に関する必要な情報」満足度80%(平成25年度66%保護者89%) 	<p>ア・生徒指導は組織体制を見直しができ落ち着いた指導ができる体制となった。(○)生徒集団への指導を徹底したこともあり遅刻懲戒件数は343件となったが半減には至らなかった。(△)次年度は250件以下をめざせる「社会を意識した学校風土」はできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「生徒指導は適切である」ことの教員の満足度70%を達成した。(保護者93%生徒80%)生徒指導への学校風土が改善されてきている(◎) <p>イ・自治会活動はあいさつ運動や清掃活動、生徒集会での校内規則への討論会など工夫した取り組みをしていた。また、ホームルーム活動との連携も図られたが、生徒の満足度は37%となった。率先して活動をリードする生徒の育成が課題と考えられる。(△)</p> <p>ウ・卓球部が近畿大会優勝、全国大会専攻科男女シングルで優勝、バレー部女子が近畿大会優勝。陸上部全国大会で4位。部活動は活発である。卓球部は高校や他府県との対外交流を活発に行った。生徒、保護者の満足度は63%、72%であったが専攻科生徒の満足度は86%であった。(○)</p> <p>(2)</p> <p>エ・実践集は事例集積を行い次年度発表と発行を行うことにした。・分かりやすい興味深い授業については61%の満足度であったが、ICT機器活用で教え方に工夫は86%の満足度であった。授業の評価としては、指導方法は丁寧であるが内容の工夫が必要であると考えられる。次年度の課題とする。(○)</p> <p>オ・iPadは全員活用できる状況になる(◎)・生徒が目標を持って学習に取り組むことの満足度は50%となる。進路指導の満足度は78%であり、進路の情報を得ることでの悩みの反映。本校のキャリア教育の浸透を図る工夫がある(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理系・文系教育課程実施(○) 今年度は受験者が少なく合格者は2名(△)意欲喚起が必要 <p>(3)</p> <p>カ・大学との連携で交流候補の学校が4校できた。(○)教員を大学から紹介されたタイへ海外派遣し交流の方法等を調整した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ASL講座を授業を20コマ、講習会4回実施した(◎) 2国立大学の関係者と連携できた(○) <p>キ・国際コースカリキュラムプロジェクトを11月に設置、内容検討を行う(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> タイでの短期留学先の確定と交流校の選定を行った(○) <p>(4)</p> <p>ク・就職希望者の就職率100%(○)企業就職13名。大学進学希望者の大学進学100%(○)私立大学進学3名国立大学3名進学</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路に関する必要な情報の満足度は74%である。本科は71%、専攻科は81%の満足度である。就職をめざす専攻科の満足度が高い。希望する進路についての丁寧な指導の満足度は78%。本科は75%、専攻科86%であることから目標が明確なことが満足度につながっている。目標をしっかりと「自覚させる」指導を継続する。(◎)

本人や保護者の思いを尊重し、学校へ入り	<p>(1) 安全で安心できる学校教育活動の推進</p> <p>ア 校内外の活動等をキャリア教育の視点から見直し、取り組む。</p> <p>(2) 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいのある学校づくり</p> <p>ア 個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の活用を検討した事例をまとめ保護者に配付活用方法を周知する。</p> <p>イ センター機能の充実を図り、聴覚障がい生徒の教育相談等の支援機能の強化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒指導の一環として校内外の環境に関心を持たせるとともに安全について考える取り組みを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全について ・25年度作成した「ハザードマップ」や「お願い手帳」を活用した取り組みから地域への関心を高める。 ・キャリア教育の視点から校内外の美化活動等を見直す ・生徒自治会の校内外の美化活動等への関心を高め、地域への活動の在り方を検討する <p>(2)</p> <p>ア・個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の研修を研究部で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度のアンケートを取り 80%の理解度達成を図る ・保護者向けに啓発プリントを計画的に配付し理解を促す ・個別の指導計画等の懇談の際に各担任よりそれぞれの計画の意義を説明・理解促進 <p>イ・教育支援連携室（D-センター）を設置し、関係学校との連携を図る。本校のセンター機能の強化と周知を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校評価「緊急時に関する対応の指導」満足度 85%（平成 25 年度 78%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの改定を行い各生徒の避難場所をより明確にする。 ・地域等への生徒自治会活動の美化活動の実施 <p>(2)</p> <p>ア・保護者向け学校評価「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」満足度 90%（平成 25 年度 82%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校評価「個別の教育支援計画の内容の説明」満足度 75%以上（平成 25 年度 63%） <p>イ・センター機能強化のための学校訪問を実施。関係府立高校訪問 100 回以上。中学校難聴学級設置校訪問 100 回以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・緊急時への対応の指導については満足度 78%であった。本科 71%、専攻科 86%の満足度であり本科生徒の意識化をより図る工夫が必要</p> <p>(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの改定を行い、掲示場所の周知を徹底した (○) ・ホームルーム活動での清掃活動、生徒自治会による地域への美化活動を実施した。あいさつ週間活動を実施する中で地域清掃活動として 4 日間実施した。地域連携は広がった (○) <p>(2)</p> <p>ア・個別の教育支援計画、移行支援計画について新転任者研修の枠の中で実施した。保護者への懇談等に際し、活用を徹底する指示を分掌長よりだした。保護者の個別の教育支援計画の説明の満足度は 98%である。・生徒の満足度は全体は 67%であったが本科 59%、専攻科 86%の満足度であった。</p> <p>保護者の懇談では一定の改善が見られた。(◎) 生徒においては、本科生徒と専攻科生徒の違いは、目的意識にあると考えられる。(○) 進路に対する本科生の意識喚起への工夫が課題である。</p> <p>イ・センター機能は強化され、相談回数が 140 回となった。学校見学会への参加中学校 11 校。中学校 30 校のべ 103 回相談、高等学校 5 校のべ 37 回相談、その他 26 回の広報相談活動を実施できた。(◎) 成果としては十分であり、次年度も継続していく。</p>
---------------------	--	--	---	---

聴覚高等支援学校として、より質の高い教育の提供	<p>(1) 教職員一人ひとりの資質の向上と専門性の向上をタブレット型PC・電子黒板等ICT機器(授業力向上、教材開発等)を活用して行う</p> <p>ア iPad等ICT機器を活用した授業実践のまとめを行い公開研究会を行う</p> <p>イ より生徒に分かりやすいキャリア教育をICT機器等を活用しながら行う</p> <p>ウ 公開授業週間、反省アンケート、授業アンケートを活用した授業改善</p> <p>エ 国際的視野に立つ教育の提供</p>	<p>ア・iPad等ICT機器活用チームを分掌に位置づけてiPadアプリの研究や授業活用例の集積とまとめを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究部による公開授業週間を活用した授業 電子黒板等を活用した授業の導入 新たなICT機器と文字情報システム等と連携した校内ICT活用体制の構築検討 家庭学習への活用を図る 保護者への家庭学習の啓発 <p>イ・キャリア教育と職業教育について整理するとともに「だいせん聴覚高等支援学校キャリア教育」として冊子にまとめ公表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育と職業教育の理解 各種検査の意義の理解 校内外の教育活動をキャリア教育の視点から見直す。 専攻科におけるビジネス基礎力の向上 日常の生徒指導の中に含まれる要素を明らかにする。 日々の指導のなかで活用していく 成績評価にも反映させるよう工夫していく。 図書館等の活用を図る。 より一層学力向上を図るために生徒が理解しやすい教科書の選定を選定委員会で行う。 <p>ウ・25年度学校評価や授業アンケート等を活用して授業の課題を各教員で検討し改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回実施する、公開授業週間で改善点・工夫点等を指導案に明記する。 教科等教科主任を中心に指導内容の検討を図る。 <p>エ・ASL(アメリカ手話)等の校内研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した教員交流の実施 交流及び短期留学に向けた教員の派遣 	<p>ア・iPadの活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器相互の連携した取り組み実践10例 生徒向学校評価「家庭での学習への積極性」満足度75%(平成25年度43%)また、保護者向け学校評価にも項目を入れ満足度80% <p>イ・生徒向け学校評価「職業教育における各種検査の結果の説明」満足度75%(平成25年62%)</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を整理した、まとめの作成 学校設定教科「ビジネス基礎」の専攻科で検討実施 成績評価の内規の改編 生徒向け学校評価「図書館をよく利用する」満足度60%(平成25年度39%) 「分かりやすく興味深い授業」「目標をもって毎日の学習に取り組む」の項目で生徒満足度75% <p>ウ・生徒向け学校評価「教え方にさまざまな工夫があるか」満足度90%(平成25年度78%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間の各期の参観教員数のべ30名、授業アンケート20名分 <p>エ・ASL(アメリカ手話)等の基本獲得教員5人</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互交流できる教員5人 教員2人を派遣し、まとめ報告会を開く 	<p>ア・生徒、教員とも授業や生活のなかで使用できる状況にある。公開授業や研究授業においてiPad等ICT機器を有効に活用している事例は10例以上あり日常の授業のなかに定着している。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習への積極性の満足度は47%であった。本科41%、専攻科62%である。保護者の学校との連携については73%であった。家庭での学習に課題があるが、反転学習の試みに学校クラウドを設置したので次年度の改善が期待できる。(△) <p>イ・キャリア教育についてまとめた「だいせん聴覚高等支援学校キャリア教育」を作成中である。創立10周年にあたる次年度に発行することになる。専攻科の教育課程を見直すプロジェクトを作り検討、「ビジネス基礎」を次年度より設定する。</p> <p>学校全体として社会人としてのマナーの学習を日常化していくことができた。成績評価における要素とした。教科書の内容については選定委員会で検討できた。職業教育における各種検査の結果説明の満足度は71%であり70%台になった。本科63%、専攻科90%で指導者や生徒の受け止めの意識の差がある。図書館を利用する満足度が24%となった。分かりやすく興味深い授業の満足度は61%、本科57%専攻科71%、目標を持って毎日の学習に取り組むは50%、本科41%専攻科71%の満足度であったがICT活用による指導の工夫の満足度は86%である。(△)</p> <p>ウ・教え方の工夫は、生徒満足度86%、本科82%、専攻科95%であり、iPadを中心にしたICT機器の活用が教え方の工夫につながっている(◎)</p> <p>また、初任者研究授業・公開授業週間前期において参観教員のべ135名授業アンケート42名分が出ている。公開授業週間後期1月19日～2月6日)に実施。(◎)</p> <p>エ・ASLの基本を獲得し、機器を活用した交流のできる教員は5人である。継続してレベルを上げることが必要、教員派遣を行い、交流先高等学校、短期留学の大学への下見を行い、帰国後学校で報告会を実施した。(◎)</p>
-------------------------	---	---	---	--